

- 生徒の主体性を育てたい!
- 集団づくりがうまくなりしたい!
- 特別活動の授業のアイデアを広げたい!

そんな先生方に、秀学社の特別活動通信シリーズをお届けします。



練馬区立大泉学園中学校
副校長 藤本 謙一郎

コロナ禍だからこそ特別活動を充実させ、
生徒の創造力を高め、困難な時代を生き抜く力を
育てていきましょう!

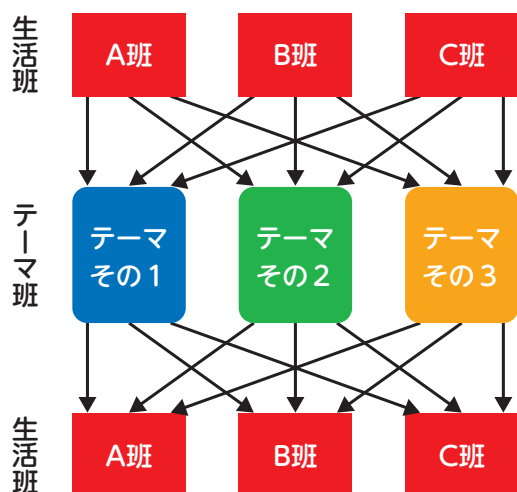
<これまでの取組をアップデート>

今回は、「特別活動のよさ」についてお話
しました。今回は、学級活動で取り組める
入門編の話し合い活動を紹介します。

1 小集団活動を活かす その1

ジグソー法を応用します。班のメンバーを
いくつかのテーマに分けた新しい班で話し合
わせ、その後元の班で話し合ったことを共有
することで全体像が把握できるというもので
す。学級活動では、生活班のメンバーが出来
るだけ重ならないように分かれてテーマごと
の班で話し合い、その後元の生活班に戻って
テーマごとの班で話し合った内容を共有して
全体像を把握します。例として、スキー移動
教室に向けた取組例を挙げておきます。「ス
キーについての学習」「スキー場についての
学習」「移動教室を楽しむ取組」「皆の団結を
高める」「感謝の気持ちを伝える」「宿舎での
生活」というような、一人一人が取り組むと
行事がより充実するテーマを生徒自身に考え
させ、生活班をテーマごとの班に再編制して
話し合い活動を行わせます。自分たちが考えた
テーマですし、自分が「ここで話したい!」
と主体的に選んだテーマなので意欲的に意見

交換・合意形成を行います。そして元の班に
戻って、話し合ったことを共有し、どの班で
も同じことを取り組んでいくという合意を得
ていきます。この方法は他の行事や活動でも
有効です。特に、学級協議のようなどちらか
と言うと形式が定まった話し合いでも充分機能
します。生活班を話し合いたい委員会ごとに
分け、希望する委員会ごとに集まったメン
バーで議案書について意見交換を行ってみて
ください。生徒は驚くほどよく話し合っ
て、委員会への意見や要望をまとめていくこと
でしょう。このような小集団を活かした話し
合いは入門編として取り組みやすいと思います。



2

小集団を活かす その2

次に、ワールド・カフェの応用を挙げておきます。

これは拡散型の話し合いになるので、学級活動の(2)や(3)の意思決定を行う活動に向いています。「運動会をより充実したものにするために」や「運動会の大成功のために」など、大きなテーマについて一人一人が自由に会話を楽しみながら意見交換を行い、互いの考えを知りながら自分が取り組みたい目標を設定(意思決定)します。まず、生活班でテーマについて話し合います。次に、一人だけその班に残り、それ以外のメンバーは一人一人違う班へと移動します。班に残った生徒は移動してきた生徒に今までどのような話し合いがあったのか報告をします。その後移動してきた生徒全員からも報告をしてもらい、新たな発想が生まれるように話題を広げしていきます。他の班も同様に行います。その後も同じように一人残って他の生徒は違う班に移動してもよいのですが、五十分という授業時間では元の生活班に戻って報告しあってもう方がよいでしょう。たった三回の話し合いでも十分に多くのアイデアを生徒同士で見出し、広がっていくことができます。そうして拡散型の話し合いを通して自分が取り組む目標を設定し、目標カード等に記入させ、一人一人テーマに沿った活動において自分で決めた目標を活かして取

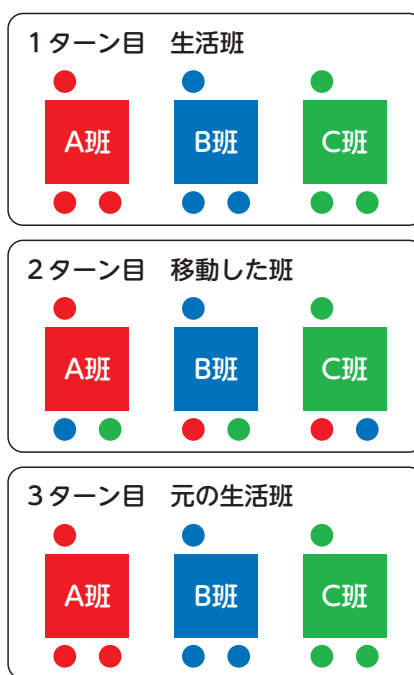
り組むように指導します。話し合いの中から自主的に決めた目標ですから、生徒はその実現のために積極的に活動してくれるはずです。

3

特別活動のさらなる充実に向けて…

以上の「小集団を活かした取組」で、学級活動を効果的に行うことができます。入門編ですので、どなたでも実践できると思います。

しかし、これらは手法に頼った方法です。特別活動で重要なことは「なすこと」によって学ぶことです。このようなシステムに頼るのではなく、もっと生徒一人一人の思いを大事にしながら身近な議題について話し合い、合意し、実践することが特別活動の目指すところです。次回はシステムに頼らずもっと生徒の意思が反映する学級活動についてお伝えいたします。



最後に

私が平成25年度東京都教育研究員(特別活動)で研究したのが「ワールド・カフェ手法の学級活動」でした。担当教科(数学)の授業では見られない生徒の生き生きとした表情は今でも忘れることができません。授業であれば得意な生徒と不得意な生徒に差が出てしまい、積極的な発言が偏っていました。しかし学級活動においては全ての生徒が対等であるように見えました。「もっと学級をよくしていこう!」という気持ちは皆同じで、互いによさを認め合って話し合う様子に感動しました。ぜひ皆さんにもご自身のクラスでそういった生徒の様子を直に見てもらいたいと思います。



※「目標カード」の一例

中学1年生の3学期に取り組んだ事例、「進級に向けて理想の上級生の姿を考え、自分が取り組む行動を考える」をテーマに、ワールド・カフェ手法の形式で話し合い、最後に個々でまとめたカード。

学級活動での話し合いの結果、「私は〇〇な2年生になる！ そのために〇〇をがんばる！」という決意表明の形式にまとめ、作成させた。

なお全員がこのカードを記入後、学期末まで掲示した。生徒は時折お互いのカードを読んで話題にしており、人間関係形成や社会参画の意識を高められた。

私は

後輩から頼られ

2年生になる！**そのために**部活で、1年生に練習方法を教えたり、
積極的に話しかけたり、
勉強も教えてあげたりすること**をがんばる！**Name